第 25-26 回合同千葉県理学療法士学会

学会長 竹内弥彦 先生へ ミニインタビュー

昨年度はコロナ禍における学会となり、
千葉県では初めてのオンライン学会となりました。

広報局では、
竹内先生へオンライン学会を運営された感想、
苦労されたことや新しい発見、今年度の学会に
期待することなどインタビューさせて頂きました。

インタビュアー

昨年度は、コロナ禍 2 年ぶりの学会となり、第 25-26 回の合同開催でありました。

まずは盛会裏でありましたこと本当にお疲れ様でございました。

竹内先生

ありがとうございます。ご講演いただいた講師・シンポジストの皆さまはじめ、演題発表・座長を務めていただいた皆さま、ご参加・ご支援をいただいたすべての皆さまに心より感謝を申し上げます。

インタビュアー

学会メインテーマが『不意流行』でありました。テーマに込めた思いと、学会を終えて思うことなど教えてください。

竹内先生

新型コロナ " 第 1 波 " とされる 2020 年 4 月の 1 か月前に開催予定であった第 25 回県士学会を中止しました。当初、集合学会の予定で準備を進めており、残すは学会当日に開催するだけの状態でしたので、断腸の思いで中止を決断した 2020 年 2 月 23 日朝のことをよく覚えています（当日は理学療法士国家試験当日で複雑な気持ちで学生を激励していたことを思い出します）。前置きが長くなりましたが、第 25 回学会のテーマが「原点回帰」でした。県士学会も四半世紀を迎え、参加した方々が様々な意味で「原点に立ち返る」学会を目指していました。この原点回帰の

意味合いも含め、未知のウィルスの出現により一変した、私たち理学療法士の日常業務においても、不変であるべきことを見直し、時代により変化しない理学療法の本質と新しく変化をしていくべきことについて、参加者の皆さまとともに考えていく学会にしたいとの想いから、第 25-26 回学会のテーマを「不易流行～理学療法の不変性と変革の時代に向けて～」としました。

　学会を終えて思うことは、「感謝」しかありません。初めてのオンライン開催で手探りの運営にも関わらず、文句ひとつ言わずに準備に奔走いただいた準備委員の皆さまをはじめ、発表・参加してくださった会員の方々に改めて感謝いたします。

インタビュアー

　第 25-26 回県学会では多くの発表があり、どれも素晴らしい内容、発表でありました。

　その中、5 名の優秀演題受賞者の選出がございました。

　是非、昨年度学会長であります竹内先生より受賞者の皆さまに一言お願いいたします。

竹内先生

　ご受賞された 5 名の方々、誠におめでとうございます。この大変な状況下において、優れた研究成果や県士会の重点課題に沿った調査内容を公表していただけたことを、学会長として感謝いたします。本来であれば、学会の閉会式において、大勢の参加者の前で盛大に授賞式が行われるところ、今回はメールでの受賞連絡となり、賞状は郵送となってしまいましたが、それも良い記念だと思ってご容赦ください（笑）。

インタビュアー

　今年度、第 27 回県学会も昨年度と同様にオンライン学会となります。

　オンライン学会を運営するにあたり、多くの苦労や発見もあったのではないかと存じます。

　今年度の学会に期待することがございましたらお願いいたします。

竹内先生

　第 27 回学会の学会長を応募・決定するにあたり、条件はオンライン学会とすることでした。この厳しい条件下で立候

補をしていただいた西田学会長をはじめ、福家副学会長、樋口準備委員長および準備委員の皆さまには、学会検討委員長として心より感謝を申し上げます。

現在、私も相談役として準備委員会に参加させていただいておりますが、徐々に決まりつつある企画内容等がとにかく素晴らしいので、個人的にもワクワクしながら楽しみにしております。オンライン学会ならではのメリットを活かしながら、会員の方々が日常業務で抱えている問題の解決のヒントやそれぞれの「シン」を見つけ追求できる学会を開催していただけるように期待しております。

インタビュアー

最後の質問となります。

学会参加や発表を検討されている方、県士会の全ての会員の皆様へ是非一言お願いいたします。

竹内先生

エビデンスをベースにした理学療法が社会に求められているいまの時代において、学術大会はクリニカルクエスチョンをリサーチクエスチョンに発展していける場となります。第 27 回学会では、学術局が中心となり、はじめて研究・発表をおこなう会員の方々を支援する体制を整えておりますので、ぜひ、発表にチャレンジされてはいかがでしょうか。

現在、多くの会員の方々が大変な状況下で日常を過ごされているかと思います。大変なときだからこそ、自分自身の新しい可能性を拡げる意味でも、第 27 回学会で発表にチャレンジ、または参加されることで、自身の「シン」を見つける・見つめるきっかけにしていただきたいと思います。

竹内先生、丁寧なご回答を頂き誠にありがとうございました。

今年度も多くの先生方にご発表頂けるよう、学会準備委員一同、様々な企画を検討し鋭意準備を進めております。

皆さまの学会参加、演題発表を心よりお待ちしております♪

👇学会ホームページはこちら👇

https://procomu.jp/chibapt27/